

## 第4章

# 宜野湾市の地域公共交通の基本的な方針

1. 将来都市像及びまちづくりの方針
2. 基本理念
3. 基本方針
4. 地域公共交通の将来像

## 第4章 宜野湾市の地域公共交通の基本的な方針

### 1. 将来都市像及びまちづくりの方針

宜野湾市総合計画及び各関連計画で位置づけられた目標に向けて、交通分野が目指す将来像を整理しました。

#### ■ 第4次宜野湾市総合計画（H29年度～R6年度）

将来像	人がつながる 未来へつなげる ねたてのまち 宜野湾 ～活気にあふれ、豊かですみよいまちを目指して～
基本目標	目標5：安全・快適で、持続的発展が可能なまち
基本施策	交通ネットワークの整備 -新交通システムの構築

#### ■ 宜野湾市都市計画マスタープラン（R3～R23）

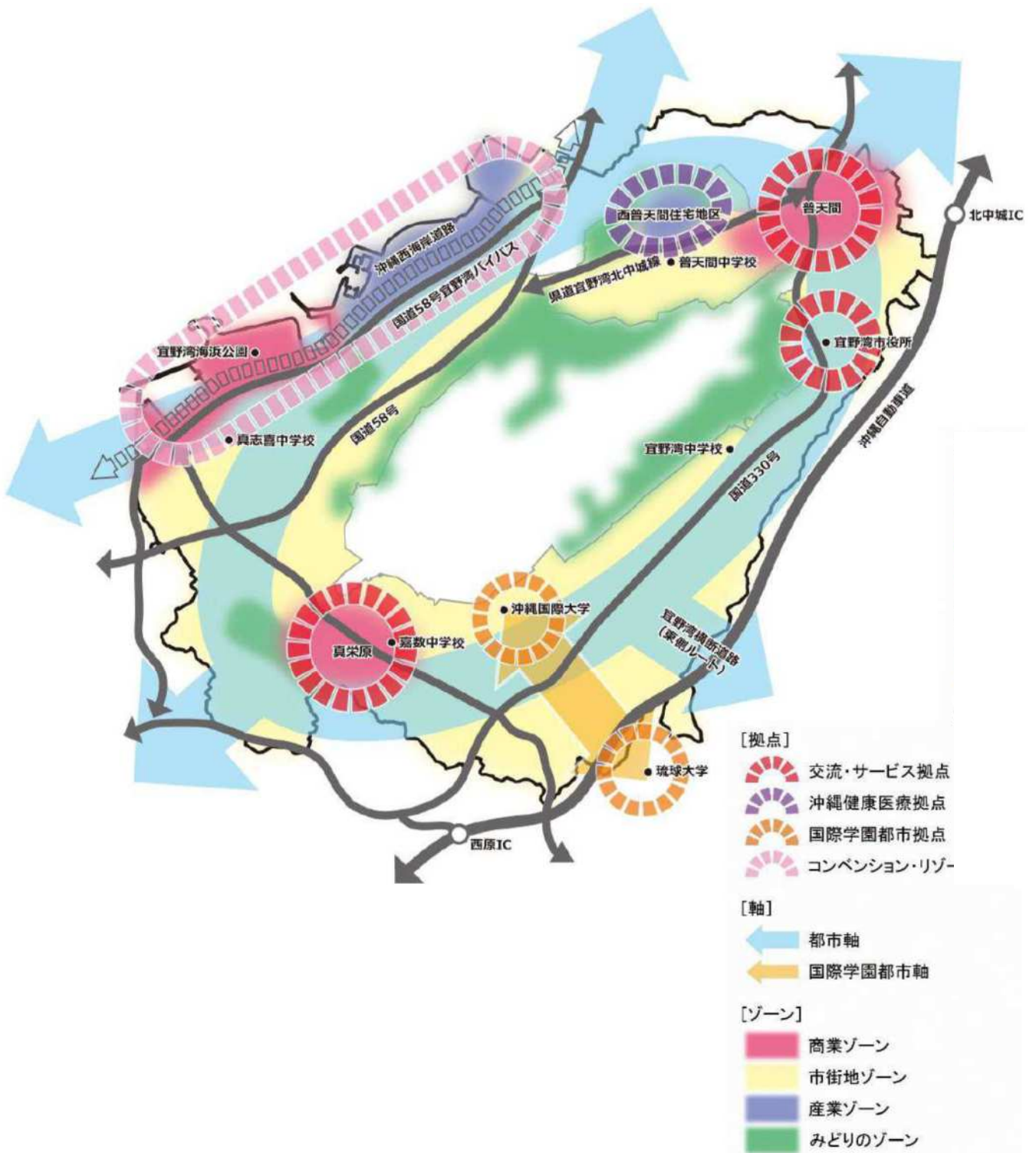
将来都市像	未来を育む ねたてのまち 宜野湾 ～魅力ある暮らしとにぎわいあふれる 交流共生都市～
都市づくりのテーマ	交通環境が整った都市づくり 誰もが多様な手段で安全・快適に都市内や都市間を移動することができる自動車に頼りすぎない歩いて暮らせる都市を目指す
将来都市構造（短期・中期）	拠点機能の維持・充実と拠点連携・循環型都市構造の強化
交通体系の基本方針	（2）持続可能で利便性の高い公共交通網の充実

#### ■ 宜野湾市都市交通マスタープラン（H24～R12）

都市像（基本理念）	「ねたて」の都市・ぎのわんを支える地域の振興と人と環境にやさしい交通の実現
将来都市交通体系	広域幹線・都市圏幹線・市内幹線・交通結節点、MM
基本目標	1：将来都市構造の実現と都市活力を想像する交通環境づくり 2：誰もが移動しやすく暮らしやすい交通環境づくり 3：環境に配慮した交通環境づくり

## ■ 将来都市構造（短期・中期目標）

宜野湾市都市計画マスタープランにおける将来都市構造（短期・中期目標）では、「交流・サービス拠点」（普天間、宜野湾市役所周辺、真栄原）、「沖縄健康医療拠点」（西普天間住宅地区）、「国際学園都市拠点」（琉球大学・沖縄国際大学周辺）、「コンベンション・リゾート拠点」（西海岸）の4つの拠点が設定されています。これら拠点は「都市軸」及び「国際学園都市軸」の2つの軸で結ばれています。



資料：宜野湾市都市計画マスタープラン（R3.12）

## 2. 基本理念

本市の総合計画や都市計画マスタープラン、都市交通マスタープランで示す「将来都市像及びまちづくりの方針」を踏まえ、地域公共交通の基本理念を定めます。

【基本理念】

### ねたてのまちを支えるシームレス交通体系

～モビリティの選択肢がある便利なまち～

※シームレスとは・・・

「継ぎ目のない」という意味で、転じて複数のサービス間のバリアを取り除き、容易に複数のサービスを利用することができることを指す。交通のシームレス化とは、複数の交通手段の接続性を改良することを言う。

## 3. 基本方針

基本理念を踏まえ、以下のとおり基本方針を定めます。

方針  
1

### 生活を支える公共交通の実現

多様化かつ流動的な移動ニーズに対して、共創とデジタル技術をもって対応し、日常生活を支える安全で快適な移動環境の構築を目指します。

方針  
2

### 都市の成長を高める公共交通の実現

駐留軍用地跡地の新たなまちづくりや既存市街地の機能更新等で生じる交通需要や、周辺市町村との広域移動に対応した交通ネットワークの構築を目指します。

方針  
3

### 環境に配慮した公共交通の実現

交通分野におけるGX※や環境に配慮した交通行動への啓発などに取り組み、環境負荷の少ない持続可能な公共交通の実現を目指します。

※GX：グリーントランスフォーメーションの略。温室効果ガスを削減することで、地球温暖化をはじめとした環境破壊や気候変動の課題に取り組むことを目的とした活動

## 4. 地域公共交通の将来像

基本理念、基本方針を踏まえ、本市の地域公共交通ネットワークの将来像と拠点、交通機関ごとの役割を定めます。

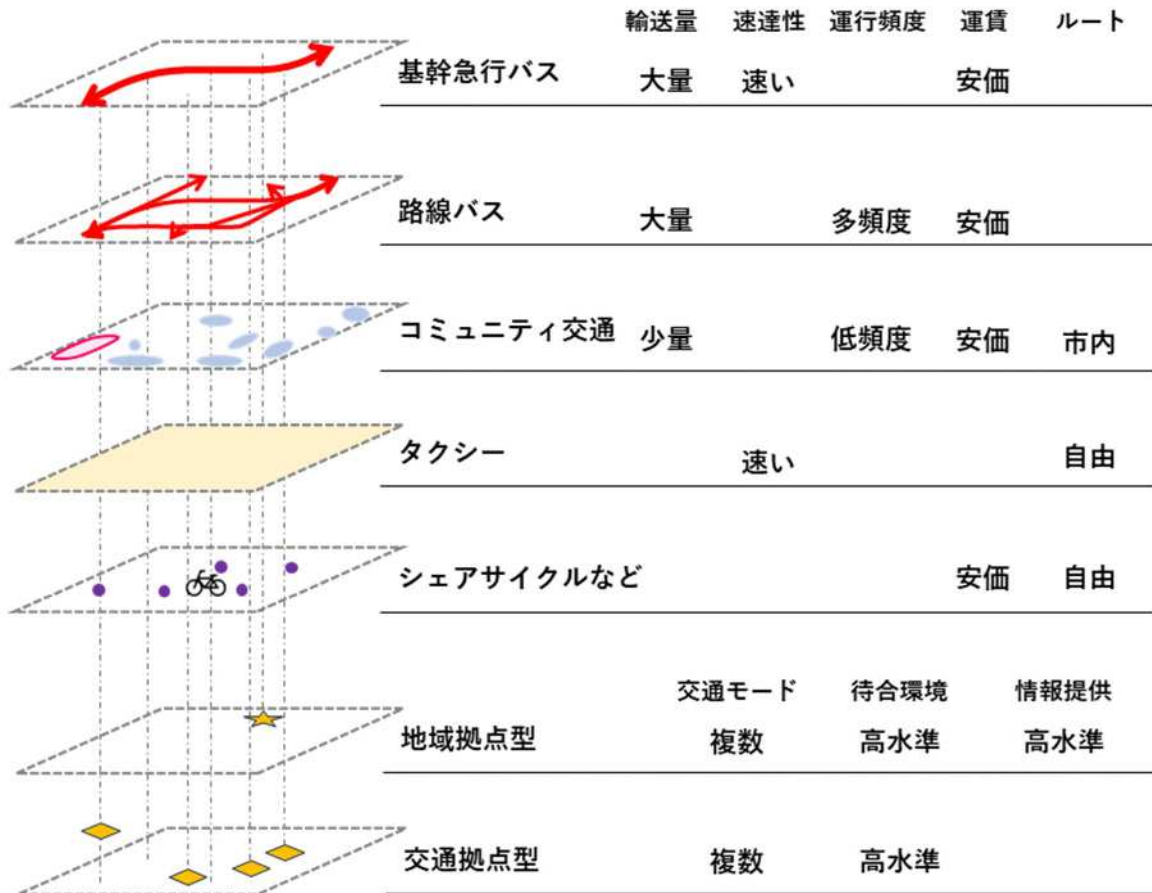
### ■交通機関の役割

区分	交通機関	役割	想定される交通手段
幹線交通	基幹バス	市内外の移動を支える骨格軸として、市民の通勤や通学、買物等の日常生活での移動や観光やビジネスでの来訪者の円滑な移動を担う。 特に、那覇・浦添、沖縄方面への速達性の高い移動を確保する。	基幹急行バス（系統 23 番、系統 777 番、系統 331 番）、連接バス♦
	路線バス	市内外の移動を支える骨格軸として、市民の通勤や通学、買物等の日常生活での移動や観光やビジネスでの来訪者の円滑な移動を担う。	市外と連絡する路線バス（系統 21 番、系統 28 番、系統 52 番、系統 90 番、系統 98 番等）
	空港等アクセスバス	主に観光客の移動を支える骨格軸として、那覇空港と本市西海岸や、周辺の北谷町、読谷村の沿岸部や北部の主要な観光地との移動を担う。	空港アクセスバス（那覇空港～北谷、読谷、海洋博公園）
支線交通	コミュニティ交通	主に交通空白地域の移動を担い、幹線交通、支線交通へのアクセスや、地域内の多様な移動ニーズに応える。	タクシー、デマンド交通♦、グリーンスローモビリティ♦、自家用有償旅客運送♦、ライドシェア*
	シェアリングサービス	最寄りバス停から目的地までの移動など、個人のラストワンマイル*の移動を担う。	シェアサイクル、電動車いすのシェアリング♦

♦は、今後導入が検討される交通手段

\*ラストワンマイル：最寄りバス停から最終目的地までや、自宅から最寄りバス停までなど、最後（最初）の短い区間の移動のこと。

## ■ 交通機関と交通結節点のサービス水準と階層的構造



## ■ 交通結節点の役割

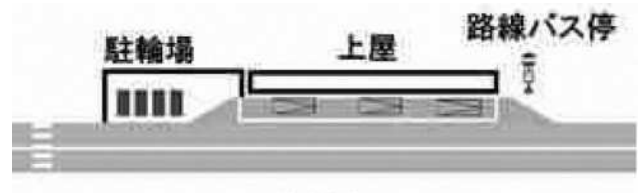
### 【地域拠点型】

公的施設など人が集まる施設と一体となった交通拠点



### 【交通拠点型】

端末交通と路線バスを接続する小規模な交通拠点



出典：交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン（国土交通省）

## ■ 将来ネットワークイメージ

本計画における将来ネットワークイメージは下記に示すとおりであり、将来ネットワークイメージは、計画期間5年後以降も見据えて中長期的な視点で作成しています。

